

令和8年度第1回宮代町地域公共交通会議 会議録

■日 時：令和8年7月29日（水）午前10時00分～午前11時40分

■場 所：宮代町役場 202会議室

■出席者：（委員）

渋谷会長、田沼委員、戸部委員（代理）、平子委員、飯塚委員、関根委員、
小池委員、鳥羽委員、熊谷委員、小川委員、郷田委員、
泰楽委員、佐野委員、高橋（博幸）委員、菅井委員、井上委員
（事務局）

企画財政課 村山副課長、島村主幹、小島主査、小林主任
健康介護課 横山主任

■欠席者：（委員）

高橋（茂雄）委員、金子委員

■傍聴者：1名

1 開会

村山副課長より、会議の開催及び会議資料の確認。

2 任命書交付

渋谷副町長より出席委員へ任命書の交付。

3 あいさつ…渋谷副町長

本日は大変お忙しい中、また大変暑い中、第1回目の会議に出席いただきまして心から感謝申し上げます。

町では、昨年度宮代町公共交通需要調査を実施しまして住民の皆さまから様々なご意見やご提案をいただきました。また、事業者の皆さまにもご協力をいただきまして、現状の課題や今後の展望について貴重なお話を伺うことができました。この場をお借りしまして改めて感謝申し上げます。

本日の会議では、この調査の最終報告と併せて昨年度の循環バス及びタクシー券の利用状況につきましてもご報告させていただきたいと思っております。委員の皆様には、各分野での専門的な知識や利用者の目線など様々な視点からのご意見をいただきますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

4 議事

- (1)「資料1」循環バス運行状況について(R7年度末)・・・事務局(小島主査)より説明。令和7年4月から令和8年3月までの利用状況について前年比較を交えて報告。

(質疑応答)

委 員： バス停ごとの乗降人数のデータはあるか。

事務局： データはある。資料3の説明の際に、主要なバス停の乗降について報告をさせていただく。

委 員： 乗客の世代別の乗降データはあるか。若い人や子供連れが増えている等あるか。

事務局： 世代別の乗降データは安全運行上、取ることが難しいので無いが、今回の住民意識調査で循環バス利用状況を取った。70代以上の利用率27.4%とやはり高いことが分かった。詳細は改めて資料3でご報告させていただく。

委 員： 車椅子の方が乗車するときは座席を4台折りたたむ、すると立席が出てしまう。バスの後方に車椅子をそのまま乗せられる車種はないのか。

事務局： 車両の選定は宮代町を一周するにあたって道路事情等を考慮し、今のサイズとなっている。現在の車両は、昨年途中から変えていて座席数が11席から15席へ増やしているが、状況によって座れないことがあるというのは、今後の課題とさせていただく。

- (2) タクシー券利用状況について(R7年度末)・・・事務局(横山主任)より説明。令和7年4月から令和8年3月までの利用実績について前年比較を交えて報告。

(質疑応答)

委 員： タクシー券を配布しても使われないことがあると聞く。その場合、発行費用等はどうなっているのか。

事務局： 実際に費用が発生するのは、タクシー券が使われてタクシー会社から請求があったときになる。配布の際に用紙代と郵送代はかかってしまっているが、お金が無駄になっているということではない。

委 員： 次年度タクシー券を渡す際に利用状況アンケートをとって、使う人には

より多く、あまり使わない人には少なくというように配布枚数を調整したりはできないのか。

事務局： アンケートは取っていないがタクシー券を利用されている方から問い合わせ等があった際に聞き取り等を行っている。配布枚数の調整は公平性が失われてしまうため一律の枚数で配布をしている。

(3) 宮代町公共交通需要調査の実施について…事務局（島村主幹）より説明
公共交通需要調査の報告について説明。

(質疑応答)

委 員： タクシー券や循環バスの経費が掛かっているが、今後宮代町としては、どのくらいの予算をかけて、どのくらいの人に利用してもらいたいのか。

事務局： 予算の目安としては、現在の予算が一つの目安。今後限られた資源をどこに充てるかが重要と考える。調査結果からは、移動手段がない、バス停までいけない等があり、移動の困りごとを解決することが一つある。今後、対応案を試算していき、方向性について委員の皆様と共有しご意見をいただきたい。

委 員： タクシーに乗ろうとする車いすの方と付き添いの方が自ら車いすをタクシーに乗せていて運転手は手伝わない光景をみたが、運転手は車いすを扱う研修をしていないのか。

委 員： タクシーの運転士も高齢化し手伝えない場合もある。また、乗客の中には触れてほしくないという意見もある。

委 員： 介護施設が使用している車両を利用してタクシーのような使い方はできないか。また、介護が必要な方の移動手段となる業者に町が支援できないか。

事務局： 交通対象者ごとの住み分けが必要と考える。行政として町の交通として支えるところと、介護・福祉事業者にお願いするところに分けて考えてい。

委 員： 和戸駅、東武動物公園駅、姫宮駅における電車の発着と循環のバス発着を調整して乗り継ぎしやすいようにできないか。

事務局： 公共交通は特定の人のためではないので安価な価格で定刻運行を行っている。より都合の良い交通を選べば費用はかかるが希望の時間に移動ができる。費用負担と利便性のバランスだと考える。

委 員： 夏時間、冬時間で運行時刻を変えることはできないのか。

事務局： 誤解等を防ぐため季節でダイヤを変えない方が良いと考える。

委 員： 町循環バスの運転手数は何名か？

委 員： 1日3名で運行している。

4 その他

調査結果によりニーズが見えてきたので、これに合わせてどのような交通モードがよいか検討している。検討したものを委員に見ていただき、ご意見をいただきたい。その後、計画策定、実証実験としていきたいので、ご協力いただきたい。

以上。